

骨子表（2023 版） 建設部門 I 問題用（I-2）社会資本を支える施設のメンテナンスを第 2 フェーズとして取り組み推進するにあたっての課題

課題（及び問題）	課題分析（問題分析）	解決策（方向性、具体策）	波及効果と懸念事項への対応	倫理・社会持続性観点での 要点、留意点
問題分析と課題提案 あるべき状態との差異	問題の発生原因、ボトルネック 多面的に内容と共に示す	解決の方向性と、すべきこと	懸念事項（新たなリスク） その対策	解決策、リスク対策の実施に当た る留意事項
高度経済成長期に整備されたイン フラ施設の老朽化が急増 10 年間で取り組みは行われた 現状把握（調査）はできている 修繕は進まない 予防保全が進んでいない 道路橋を例に解答する	1. 対象の数が多い 全国に 70 万橋以上ある道路橋の うち、7 割は市町村管理	1. インフラ管理の効率化 管理対象の絞込 集約、撤去 広域連携、包括的連携	リスク：残存施設の負荷が増加す る 交通アクセスの集中 疲労による劣化が早まる 渋滞の発生 対策：既存施設の機能強化や改修 に合わせた集約・撤去の実施	倫理：公益確保（公衆の安全） 持続性：社会的影響への配慮 対象施設の社会的重要度に合わせ た対策の実施 利用状況や周辺環境の変化を見据 えた対策の実施
	2. 発注者、受注者の担い手不足 町 3 割、村 6 割が橋梁技術者不在 受注者も高齢化やベテラン技術者 の退職、入職者の減により担い手 が不足	2. メンテナンスの効率化 新技術の導入 点検、診断、補修に ICT, AI, ロボッ ト技術等を導入 省力化の推進 Pca 化、新素材の使用	リスク：新技術を使いこなす技術 が必要 対策：技術開発による技術者の負 担軽減 技術講習、研修の実施 メンテナンスの広域化による負担 の軽減	倫理：公益確保（公衆の安全） 持続性：従事者の意欲、能力の確 保 対策：複雑な操作や特殊技能を必 要としない技術の開発 技術者がいない市町村でも技術を 活用できる広域化支援
	3. 費用の確保が困難 財政力指数の低い市町村では点検 も進んでいない 6 割の市町村がメンテナンスサイ クルを回せない状況	3. 予算、人員の支援 維持費用の国庫負担、補助の拡大 技術者派遣、技術支援 インフラメンテナンス 2.0 の推進 （情報共有、DB 化、NW 化）	リスク：管理する施設数は変わら ない 対策：施設の集約、撤去 メンテナンスの広域化による負担 の軽減	倫理：公益確保（公衆の安全） 持続性：従事者の意欲、能力の確 保 対策：対象施設の社会的重要度に 合わせた対策の実施 技術者がいない市町村でも技術を 活用できる広域化支援